

平成 2 1 年度第 5 回

八王子市市史編集委員会

日 時：平成 2 2 年 3 月 7 日（日）

午後 2 時から

場 所：八王子市市史編さん室

【次 第】

1 . 開会

報告事項

2 . 事務報告

（事務報告関係資料）

八王子市史編さんの基本的な考え方 - 市史編さん基本構想

「八王子市市史編さん室と法政大学が連携」

八王子市市史編さん室だより 稲荷山通信第 4 号

市民講座「近代の歴史を探る」チラシ

浅川の野鳥観察会チラシ

3 . 専門部会の活動状況について

資料 1 市史編集専門部会調査活動報告

協議事項

4 . 平成 2 2 年度の事業（部会活動等）について

資料 2 平成 2 2 年度 市史編さん室事業予定表（案）

5 . 『市史研究』の刊行について

資料3 『市史研究』の発行について（素案）

6 . 市民協働について

資料4 市史編さんにおける市民協働について（素案）

7 . その他

8 . 閉会

市史編集専門部会調査活動報告

(平成21年9月～22年2月分)

部 会 名	平成 21 年度 第 5 回 原始・古代 部会会議	開催（実施）日時 平成 21 年 10 月 7 日（水） 午前・ <u>午後</u> 6 時 00 分～ 午前・ <u>午後</u> 8 時 30 分まで
報告者（部会長氏名） <敬称略>	関 和彦	専門員氏名 馬場 有美
出席者（参加者）氏名 <敬称略>	部会長 関 和彦 部会委員 及川良彦 黒尾和久 深澤靖幸 専門調査員 服部敬史 横田深雪 紺野英二 黒田智章 【事務局】佐藤広 新井雅人	
概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）		
<p>1．資料編の具体的な内容について検討</p> <p>（1）版型等 A4判 横書き 10ポイント 総ページ数は最大1000ページ</p> <p>（2）資料編の構成 地域ごと（河川流域ごと）に分類し、時代順に遺跡を紹介する 各河川流域の遺跡概説とその流域の時代概説を盛り込む 各遺跡の紹介 遺跡は重要度に応じて紹介のページ数を変更する まず遺跡のランク付けを行う（特A～E）</p> <p>（3）付図について 八王子市域の遺跡分布図を付図とする。 25000分の1の地図：地形図を使用 八王子市全図を1枚に収めるのは難しいので、複数枚に分けることを視野に入れる 色分けの方法：下地は黒、遺跡は赤色囲み、遺構は青色囲み</p> <p>（4）その他盛り込むべき内容 八王子考古学史（資料編あるいは本編に掲載する）</p> <p>2．今後の調査（作業）について</p> <p>（1）河川流域ごとの遺跡一覧表の作成</p> <p>（2）資料編に紹介する遺跡の選択 遺跡のランク付けを行うための資料を作成 各ランクの執筆例を作成 部会委員が担当時代ごとに遺跡のランク付けを行う 総ページ数を考慮し、部会全員で検討する</p>		

3. 課題

- (1) 遺跡紹介の文責表示はどうするか
- (2) 資料編の内容デザインをどうするか
- (3) 掲載する図版のためのトレースは何枚程度必要か。誰がトレースを行うのか
- (4) 掲載写真は誰が、何枚程度撮るのか

4. 編集委員会の報告

中世以降の考古学の成果について

中世部会、近世部会で取り扱うべき遺跡一覧を作成し、次回の編集委員会で提供できるようにする

5. 服部敬史専門調査員による報告

「八王子を中心とした多摩地方の考古学史」

部 会 名	平成 21 年度 第 6 回 原始・古代 部会会議	開催（実施）日時 平成 21 年 12 月 16 日（水） 午前・ <u>午後</u> 6 時 00 分～ 午前・ <u>午後</u> 8 時 30 分まで
報告者（部会長氏名） <敬称略>	関 和彦	専門員氏名 馬場 有美
出席者（参加者）氏名 <敬称略>	部会長 関 和彦 部会委員 池上悟 及川良彦 黒尾和久 深澤靖幸 専門調査員 服部敬史 横田深雪 紺野英二 黒田智章 【事務局】佐藤広 新井雅人 馬場有美	
<p>概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）</p> <p>1．資料編の構成について検討</p> <p>（1）遺跡紹介以外の内容の扱いについて</p> <p>以下の内容について扱う</p> <p>絵図 文字資料 墨書土器 考古学史（発掘史）</p> <p>保存されている遺跡とアクセス コラム</p> <p>要検討</p> <p>編年表 遺跡年表</p> <p>（2）遺跡紹介の順序について</p> <p>河川流域 時代順 集落、墓、祭祀、生産史</p> <p>どの内容にも入らないもの、特殊なものについては、コラムに入れていく。</p> <p>2．今後のスケジュール</p> <p>（1）資料編に掲載する遺跡の選定方法について</p> <p>遺跡選定の作業チームを作り、市史編さん室にて検討会を行う。次回の部会会議までに掲載遺跡の素案を作成する。</p> <p>部会会議にて作業チームが素案を報告し、部会全体で掲載遺跡について検討する。</p> <p>各遺跡の重要度と執筆者を決定する。</p> <p>素案の作成（遺跡選定の作業チーム）は及川委員、深澤委員、服部専門調査員が行う。12月から1月にかけて3回程度、検討会を実施する予定。</p> <p>（2）今後の現地調査について</p> <p>市北部（川口川流域、谷地川流域）の調査を2月中に行う</p>		

3．中世・近世の遺跡について

市内の中世、近世のそれぞれの遺跡一覧を作成し提示することとした。中世部会、近世部会が目にとまる遺跡があれば、原始・古代部会に声をかけてもらい、こちらでその遺跡について説明できるよう準備をする。

4．本編の内容について

各部会委員が考える本編のイメージについて発言

< 配布資料 >

原始・古代資料編遺跡紹介ページのための重要度別雛形

八戸市史（目次、遺跡年表、土器編年表）

仙台市史（目次、遺跡紹介ページの一部）

部 会 名	平成 21 年度 第 7 回 原始・古代 部会会議	開催（実施）日時 平成 22 年 2 月 22 日（月） 午前・ <u>午後</u> 6 時 00 分～ 午前・ <u>午後</u> 8 時 00 分まで												
報告者（部会長氏名） < 敬称略 >	関 和彦	専門員氏名 馬場 有美												
出席者（参加者）氏名 < 敬称略 >	部会長 関 和彦 部会委員 及川良彦 黒尾和久 竹花美保 深澤靖幸 専門調査員 服部敬史 横田深雪 黒田智章 【事務局】佐藤広 新井雅人 馬場有美													
概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）														
<p>1．新部会委員の紹介 部会委員を竹花美保氏に委嘱。旧石器時代を担当する。</p> <p>2．基本構想と編集方針の確認 新井主幹より 12 月 1 日に決定した「八王子市市史編さんの基本的な考え方 - 市史編さん基本構想」と「八王子市市史編集方針」の説明</p> <p>3．資料編掲載遺跡と遺跡の重要度（素案）の報告 （1）掲載遺跡と重要度の報告 12 月から 1 月にかけて、遺跡仕分けチーム（及川委員・深澤委員・服部専門調査員）により、八王子市にある 1030 遺跡の中から、資料編に掲載すべき遺跡と、その重要度についての検討会が行われた。 掲載遺跡の重要度を A～D のランクに分け（ランクごとに紹介頁数を設定）河川流域ごとの頁ボリュームを算出した。</p> <table border="0" data-bbox="287 1545 925 1747"> <tr> <td>谷地川・多摩川流域</td> <td>40 遺跡抽出</td> <td>118 ページ</td> </tr> <tr> <td>川口川・浅川流域</td> <td>49 遺跡抽出</td> <td>129 ページ</td> </tr> <tr> <td>湯殿川・山田川流域</td> <td>35 遺跡抽出</td> <td>137 ページ</td> </tr> <tr> <td>大栗川流域</td> <td>62 遺跡抽出</td> <td>245 ページ</td> </tr> </table> <p>（2）資料編全体の頁数について 遺跡紹介のほか、資料編に盛り込むとされた時代概説、河川流域概説、コラム、遺跡一覧等の頁数を概算し、全体の頁数が 1000 頁に収まっていることを確認。今後、各内容と頁数について、さらに検討を行う。</p>			谷地川・多摩川流域	40 遺跡抽出	118 ページ	川口川・浅川流域	49 遺跡抽出	129 ページ	湯殿川・山田川流域	35 遺跡抽出	137 ページ	大栗川流域	62 遺跡抽出	245 ページ
谷地川・多摩川流域	40 遺跡抽出	118 ページ												
川口川・浅川流域	49 遺跡抽出	129 ページ												
湯殿川・山田川流域	35 遺跡抽出	137 ページ												
大栗川流域	62 遺跡抽出	245 ページ												

(3) 基礎資料 (写真・図版・地図) の作成について

写真・図版の一次選択と、それらを遺跡・時代ごとに画像にまとめる作業を開始した。これを執筆のための基礎資料とし、また掲載写真の検索作業に用いる。

(4) 今後のスケジュール

掲載遺跡 (素案) を、次回の会議までに各委員が検討。次回の部会会議にて掲載遺跡の決定と執筆者の決定が行えるようにする。

4 . 第 2 回 実地調査について

3 月 21 日 (日) 市北部 (川口川流域) の実地調査を行う

5 . 関部会長より近世・近代地誌の考古関係記述一覧の報告 (その 1)

発掘された考古資料をさらに活かすため、近世・近代の地誌類に記された考古を中心に、八王子の古環境に関する記述を抜き出し、まとめる。

今回の報告 : 『新編武蔵風土記稿』より流水・井泉関係の記述、動植物・産業などの記述

6 . 次回の部会会議

3 月後半から 4 月初めにかけて行う

< 配布資料 >

事務局より

「八王子市史編さんの基本的な考え方 市史編さん基本構想・八王子市史編集方針」

資料 1 「掲載遺跡案 (谷地川・多摩川流域、川口川・浅川流域、湯殿川・山田川流域、大栗川流域)」

資料 2 「各時代・各流域頁数について」

資料 3 「原始・古代資料編頁配分」

執筆基礎資料 (写真・図版) 「宇津木向原遺跡・尾崎遺跡」「下耕地遺跡」

「『新横須賀市史』別編考古 仕様・共通事項など」

関部会長より 『近世地誌考古関係記述一覧』

部 会 名	平成 21 年度 中世部会 第 1 回文書調査	開催（実施）日時 平成 21 年 10 月 13 日（火） 午前・ 午後 1 時 ~ 午前・ 午後 4 時 まで
報告者（部会長氏名） < 敬称略 >	池上裕子	専門員氏名 柳沢 誠
出席者（参加者）氏名 < 敬称略 >	部会長 池上裕子 部会委員 小林一岳 櫻井 彦 加藤 哲 【事務局】柳沢 誠	
<p>概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）</p> <p>前田育徳会尊経閣文庫所蔵資料（文書 3 点、系図 1 点、絵図 1 点）の閲覧調査を実施した。</p> <p>1. 調査対象資料</p> <p>（ 1 ）永仁 2 年（ 1294 ） 9 月 29 日「関東下知状」</p> <p>（ 2 ）正和 2 年（ 1313 ） 5 月 2 日「関東下知状」</p> <p>（ 3 ）文保元年（ 1317 ） 6 月 7 日「関東下知状」</p> <p>（ 4 ）「天野系図」</p> <p>（ 5 ）「武州八王子古城図」</p> <p>2. 調査内容</p> <p>古文書の料紙・筆跡の確認、法量の計測、既刊史料集との文字の異同の確認を行なった。</p> <p>【配布資料一覧】</p> <p>1. 『多摩市史』資料編一 考古・古代・中世（1995 年）</p> <p>2. 特別展図録『北条氏照と八王子城』（八王子市郷土資料館、1990 年）</p> <p>上記資料の必要箇所をコピーして配布。</p>		

部 会 名	平成 21 年度 中世部会 第 4 回実踏調査	開催（実施）日時 平成 21 年 11 月 22 日（日） 午前・午後 10 時 ~ 午前・午後 4 時 30 分まで
報告者（部会長氏名） < 敬称略 >	池上裕子	専門員氏名 柳沢 誠
出席者（参加者）氏名 < 敬称略 >	部会長 池上裕子 部会委員 小林一岳 櫻井 彦 加藤 哲 【事務局】新井雅人 渡部恵一 柳沢 誠	
<p>概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）</p> <p>加住地区を中心に実踏調査を行なった。</p> <p>実踏先</p> <p>（ 1 ）龍源寺（加住町） 文安 5 年（1448）の月待板碑見学（「谷慈郷代屋村住人」）。</p> <p>（ 2 ）大沢集落（加住町） 大谷（オオヤツ）・寺谷（テラヤツ）周辺を巡検。</p> <p>（ 3 ）少林寺（滝山町） 境内見学。延文 3 年（1358）銘板碑、永和 2 年（1376）銘板碑等見学。</p> <p>（ 4 ）滝山城跡（丹木町） 城内縄張りを見学。</p> <p>（ 5 ）龍光寺（宇津木町） 文和 2 年（1353）銘阿弥陀名号板碑見学。</p> <p>（ 6 ）円通寺（高月町） 高月城麓。境内見学。</p> <p>（ 7 ）高月城跡（高月町） 城内遺構確認。</p> <p>【配布資料一覧】</p> <p>1．『新編武蔵国風土記稿』多摩郡（文献出版、1997 年）</p> <p>2．縣 敏夫『八王子市の板碑』（揺籃社、2005 年） 上記資料の必要箇所をコピーして配布。</p> <p>3．『多摩文化』15 号（1965 年）より、「皇国地誌」加住地区の村誌</p>		

部 会 名	平成 21 年度 中世部会 第 2 回文書調査	開催（実施）日時 平成 21 年 12 月 13 日（日） 午前・午後 9 時 分～ 午前・午後 12 時 分まで
報告者（部会長氏名） <敬称略>	池上裕子	専門員氏名 柳沢 誠
出席者（参加者）氏名 <敬称略>	部会長 池上裕子 部会委員 小林一岳 櫻井 彦 加藤 哲 【事務局】柳沢 誠	
概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）		
<p>京都市東福寺所蔵武蔵国船木田荘関係文書 5 点の調査を行なった。</p> <p>1．調査対象文書</p> <p>（1）嘉慶 2 年（1388）5 月 25 日「太政官牒」</p> <p>（2）（文和 3 年〔1354〕）閏 10 月 21 日「東福寺領武蔵船木田庄年貢代付物送文」</p> <p>（3）貞治 2 年（1362）12 月 19 日「東福寺領武蔵船木田庄領家方年貢算用状」</p> <p>（4）至徳 2 年（1385）12 月 25 日「東福寺領武蔵船木田庄領家方年貢算用状」</p> <p>（5）延徳 2 年（1490）9 月 3 日「東福寺領諸庄園目録」</p> <p>2．調査内容</p> <p>文書料紙・筆跡を確認し、法量を計測。所見を調査カードに記入。 文書をデジタルカメラで撮影。</p> <p>3．その他</p> <p>東福寺域にある九条家墓所、最勝金剛院に赴き、調査を行なった。九条兼実廟所（通称「八角堂」）については、後日九条家の了承を得たうえで行なうこととした。</p> <p>船木田荘は東福寺に寄進される前は九条家領で、九条兼実の異母姉の皇嘉門院（藤原聖子。崇徳天皇の中宮）から譲りうけたもの。</p> <p>【配布資料一覧】</p> <p>1．『大日本古文書』家わけ 20 東福寺文書</p> <p>2．『日野市史資料集』古代・中世編（1981 年）</p> <p>3．『多摩市史』資料編一 考古・古代・中世（1995 年）</p> <p>上記自治体史の必要箇所をコピーして配布。</p>		

部 会 名	平成 21 年度 中世部会 第 3 回文書調査	開催（実施）日時 平成 22 年 1 月 24 日（日） 午前・ 午後 1 時 ~ 午前・ 午後 5 時 まで
報告者（部会長氏名） < 敬称略 >	池上裕子	専門員氏名 柳沢 誠
出席者（参加者）氏名 < 敬称略 >	部会長 池上裕子 部会委員 小林一岳 櫻井 彦 西岡芳文 加藤 哲 専門調査員 遠藤ゆり子 長谷川裕子 徳永裕之 原 美鈴 調査員 高島良太 <p style="text-align: right;">【事務局】新井 雅人 柳沢 誠</p>	
<p>概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）</p> <p>1．八王子市郷土資料館所蔵中世関係文書・資料の閲覧調査 郷土資料館所蔵広瀬家文書（亥〔天正 15 年、1587〕11 月 3 日北条氏照印判状等） 他 22 点の文書・資料の閲覧調査を行なった。</p> <p>2．「横山党根拠地」の実踏調査 元横山町八幡八雲神社及び妙薬寺を見学。妙薬寺では宝篋印塔（伝横山氏墓。永禄 3 年〔1560〕銘。永和 3 年〔1377〕説あり）を見学。</p> <p>【配布資料一覧】</p> <p>1．『所沢市史』中世史料（1981 年）</p> <p>2．『八王子市史』附編（1968 年）</p> <p>上記自治体史の必要箇所をコピーして配布。</p>		

部 会 名	平成 21 年度 中世部会 第 5 回実踏調査	開催（実施）日時 平成 22 年 2 月 21 日（日） 午前・午後 10 時 ~ 午前・午後 4 時 30 分まで
報告者（部会長氏名） < 敬称略 >	池上裕子	専門員氏名 柳沢 誠
出席者（参加者）氏名 < 敬称略 >	部会委員 加藤 哲 専門調査員 遠藤ゆり子 長谷川裕子 徳永裕之 調査員 大貫茂紀 高島良太 【事務局】 柳沢 誠	
<p>概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）</p> <p>八王子城跡を中心に実踏調査を行なった。</p> <p>1．八王子城跡</p> <p>（1）北条氏照及び家臣墓</p> <p>（2）御主殿跡～御主殿の滝</p> <p>（3）金子曲輪・本丸・小宮曲輪等主城部分</p> <p>（4）大天守部分</p> <p>通称「馬冷し」から北側巻き道を通り、登山路八合目から下恩方町松竹へ。</p> <p>2．下恩方町方面</p> <p>（1）川原宿の見学</p> <p>浄福寺城（別名案下城、千手山城、松竹城、新城）の城下とされている。</p> <p>（2）小田野城</p> <p>北側の麓まで行き、外周のみ確認。</p> <p>【配布資料】</p> <p>1．東京都教育委員会編『東京都の中世城館』城館一覧・分布図編（2005 年）</p> <p>2．東京都教育委員会編『東京都の中世城館』主要城館編（2006 年）</p> <p>3．「八王子古城図」二編（八王子郷土資料館編『北条氏照と八王子城』〔1990 年〕より）</p> <p>上記資料より必要箇所を抜き出し調査のしおりを作成・配布。</p>		

部 会 名	平成 21 年度第 4 回 近世部会会議	開催（実施）日時 平成 21 年 11 月 13 日（金） 午前・ 午後 3 時 00 分～ 午前・ 午後 5 時 50 分まで
報告者（部会長氏名） < 敬称略 >	藤田 覚	専門員氏名 白石 烈
出席者（参加者）氏名 < 敬称略 >	部会長 藤田覚 部会委員 神立孝一 光石知恵子 山崎圭 【事務局】佐藤広 新井雅人 白石烈	
<p>概要</p> <p>1．市内所在調査の経過について</p> <p>(1) 由木地区調査候補 46 件中、22 件訪問して予備交渉済み</p> <p>(2) そのうち 4 家より史料借用し、1 家は整理完了</p> <p>(3) 今後、同地区寺院および他地区の調査に移行する予定</p> <p>2．他自治体史における八王子関連史料（記述）の抽出作業</p> <p>(1) 三多摩地区自治体史から八王子関連史料（記述）の抽出を作業中</p> <p>(2) 今後、甲州街道・多摩川流域の都内自治体史および神奈川・埼玉・山梨県に対象を広げる予定</p> <p>(3) 該当史料はコピーしてファイリングしていく方針</p> <p>3．筆耕について</p> <p>(1) 筆耕要領を策定</p> <p>(2) 17 世紀史料の全体量把握の作業中</p> <p>(3) 寛文期より前の検地帳、村明細帳の他、17 世紀史料の古い方から筆耕作業を開始する予定</p> <p>4．次回部会会議 平成 22 年 1 月 22 日</p>		

部 会 名	平成 21 年度第 5 回 近世部会会議	開催（実施）日時 平成 22 年 1 月 22 日（金） 午前・午後 10 時 00 分～ 午前・午後 12 時 50 分まで
報告者（部会長氏名） <敬称略>	藤田 覚	専門員氏名 白石 烈
出席者（参加者）氏名 <敬称略>	部会長 藤田覚 部会委員 神立孝一 光石知恵子 山崎圭 【事務局】佐藤広 新井雅人 白石烈	
<p>概要</p> <p>1．事務局による史料調査について</p> <p>(1) 市内南部史料所在調査 由木地区の旧家等 8 軒から古文書借用、整理中（概数 6000 点）</p> <p>(2) 市内北部史料所在調査 恩方地区 4 軒、川口地区 4 軒、加住地区 8 軒の旧家から今後史料を借用・整理予定</p> <p>(3) その他の調査 ア、平成 21 年 11 月 26 日、帝京大学メディアライブラリーセンター所蔵「武蔵国多摩郡大塚村文書」87 点のデジタルカメラ撮影。 イ、平成 21 年 12 月 28 日、静岡県伊豆の国市財団法人江川文庫所蔵江川家文書より、八王子関連史料約 200 点をデジタルカメラ撮影。</p> <p>2．筆耕について 市内 17 世紀史料 1026 点中、198 点が筆耕対象史料。そのうち 146 点を 2 月末日までに筆耕予定。</p> <p>3．他自治体史における八王子関連史料（記述）の抽出作業 資料編に有用な史料は他自治体のものでも転載する方針にする。</p> <p>4．その他、資料編作成に必要な今後の作業</p> <p>(1) 宗門人別改帳の分析およびデータ化 (2) 御用留のうち、残存量最多のもの紙焼きおよびファイリング (3) 絵図類のデータベース作成 (4) 近世文学作品や紀行文等から八王子関連記述の集積</p> <p>5．次回部会会議 平成 22 年 4 月 1 日（木）午後 2 時～</p>		

部 会 名	近現代部会 平成 21 年度第 4 回部会会議	開催（実施）日時 平成 21 年 10 月 4 日（日） 午前・ 午後 2 時 00 分～ 午前・ 午後 4 時 00 分まで
報告者（部会長氏名） < 敬称略 >	新井 勝紘	専門員氏名 中村 元
出席者（参加者）氏名 < 敬称略 >	部会長 新井勝紘 部会委員 梅田定宏、齊藤勉、佐藤正広、前田成東、源川真希 【事務局】佐藤広 新井雅人 渡部恵一 中村元	
<p>概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）</p> <p>1．八王子市史編集専門部会近現代部会の課題について 新たな部会委員（佐藤委員、前田委員）を迎え、新井部会長より近現代部会の課題について説明がおこなわれた。 新委員より、近現代の終点をどこにするか、などの質問が出され、今後の検討課題として確認された。</p> <p>2．前回会議以降の市史編さん事業の経過について 前回 8 月 24 日の部会会議以降の市史編さん事業の経過および近現代資料の整理・把握の状況について、事務局より説明がおこなわれた。</p> <p>3．近現代部会で当面必要な調査活動について （1）担当時期・分野について 部会長・部会委員の希望担当時期・分野について、以下の通り確認がなされた。 新井部会長...自由民権運動（明治 10 年代） 戦後文化運動（戦後） 梅田委員 ...東京と多摩・八王子の関係、観光、市域の変化 齊藤委員 ...昭和 10～20 年代の公文書、兵事資料 佐藤委員 ...八王子市域に関する経済統計資料の整備 前田委員 ...現代の市政（開発、交通、学園都市などを中心に）、合併問題 源川委員 ...明治 30～昭和初期の町村部の政治行政、55 年体制期の政治 現在担当者のいない時期・分野、重複する部分については、事務局で整理し、次回部会会議でさらに検討することを決定した。</p> <p>（2）当面必要な作業について 近現代部会で当面必要な作業として、部会委員より以下のような提案がおこなわれた。 ・ 八王子に関する地図を出来る限り揃えたい</p>		

- ・ 八王子に関する統計資料を出来る限り揃えたい
- ・ 市の長期計画などを出来る限り揃えたい

以上の点については、今後事務局で準備を進めることとなった。

4．近現代資料編の構成について

平成 23 年度刊行予定の近現代資料編、平成 25 年度刊行予定の資料編の構成を検討
刊行年度までの時間的な問題などを考え、資料編は公文書を中心にした編集を検討する
こととなった。資料編は、地域の基本資料に編集する方向で検討することとなった。

5．その他

(1) 今後必要な部会の調査活動について

今後部会活動を進める中必要な調査活動として、以下の諸点が提案された。

- ・ 地域の先輩研究者からのヒアリング
- ・ 現代史の当事者（元理事者、元市議、市内団体関係者など）からの聞き取り

(2) 次回部会会議について

次回部会会議は、12 月 20 日（日）に開催することとなった。

【配布資料一覧】

八王子市市史編さん室の近現代資料の把握・整理状況

平成 21 年度・22 年度八王子市史近現代部会調査活動計画表（仮）

平成 22 年度八王子市史近現代部会活動予定（案）

近現代資料編の構成について（参考資料）

部 会 名	近現代部会 平成 21 年度第 5 回部会会議	開催（実施）日時 平成 21 年 12 月 20 日（日） 午前・ <u>午後</u> 2 時 00 分～ 午前・ <u>午後</u> 4 時 00 分まで
報告者（部会長氏名） <敬称略>	新井 勝紘	専門員氏名 中村 元
出席者（参加者）氏名 <敬称略>	部会長 新井勝紘 部会委員 梅田定宏、齊藤勉、佐藤正広、前田成東、源川真希 【事務局】佐藤広 新井雅人 渡部恵一 中村元	
<p>概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）</p> <p>1．平成 23 年度刊行予定の近現代資料編 1 の資料選定担当について 平成 23 年度刊行予定の近現代資料編 1 に掲載する資料を選定するにあたっての、時代別・分野別の担当分野について、当日配布された「近現代部会『資料編 1』掲載資料選定担当一覧表（案）」に基づき検討が行われ、部会長・各部会委員の担当が決定された。</p> <p>2．平成 23 年度刊行予定の近現代資料編 1 の資料選定作業の進め方について 資料選定にあたっては、上記（1）で決定した担当に従い、まずは該当する時代ごとの旧役場文書のエクセルファイルを事務局が作成し、各部会委員に送付することが決定された。 さらに部会長・部会委員は、平成 22 年 6 月までに担当する時代・分野に関する資料の第一次選定をおこなうこととし、6 月までの間、3 月頃に資料選定の中間報告を行うことが決定された。 また上記作業の参考として、旧八王子市史、八王子市議会史で使用されている歴史資料の一覧表作成についての要望が部会委員から提起され、事務局が作成することとなった。</p> <p>3．その他 （1）今後検討が必要な課題について 資料編の組版・凡例、解説の形態、包量・形態などの資料情報の掲載の仕方などについて、他の自治体史の事例を事務局で調査し、その結果をふまえて今後の部会会議で検討していくこととなった。 （2）次回会議の日程について 次回部会会議は、平成 22 年 1 月 24 日（日）に開催することとなった。</p>		

【配布資料一覧】

八王子市市史編集専門部会 近現代部会 専門調査員一覧（平成 21 年 12 月 20 日現在）
近現代部会 平成 21 年度予算執行状況（平成 21 年 12 月 20 日現在）
近現代部会「資料編 1」掲載資料選定担当一覧表（時代別・分野別）(案)
平成 23 年度近現代資料編 1 刊行までのスケジュール

部 会 名	近現代部会 平成 21 年度第 1 回 部会委員・専門調査員会議	開催（実施）日時 平成 21 年 12 月 20 日（日） 午前・ 午後 4 時 00 分～ 午前・ 午後 5 時 00 分まで
報告者（部会長氏名） < 敬称略 >	新井 勝紘	専門員氏名 中村 元
出席者（参加者）氏名 < 敬称略 >	部会長 新井勝紘 部会委員 梅田定宏、齊藤勉、佐藤正広、前田成東、源川真希 専門調査員 金子淳 北口由望 菅井憲一 鈴木芳行 保坂一房 増沢航 宮崎翔一 【事務局】佐藤広 新井雅人 渡部恵一 中村元	
<p>概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）</p> <p>1．近現代部会構成員自己紹介 近現代部会の部会委員・専門調査員の第一回会議ということで、各自の自己紹介がおこなわれた。</p> <p>2．近現代部会構成員担当分野の確認 新井部会長より、部会委員・専門調査員の担当する時代・分野についての説明が行われ、各自の担当分野が確認された。</p> <p>3．近現代部会の今後の活動について 当日配布された「八王子市史編集委員会 近現代部会 予定概要」をもとに、今後の近現代部会の刊行スケジュールなどが確認された。</p> <p>【配布資料一覧】 八王子市市史編集専門部会 近現代部会 部会員・専門調査員一覧 （平成 21 年 12 月 20 日現在） 八王子市史編集委員会 近現代部会 予定概要 平成 2 3 年度近現代資料編 1 刊行までのスケジュール</p>		

部 会 名	近現代部会 平成 21 年度第 6 回部会会議	開催（実施）日時 平成 22 年 1 月 24 日（日） 午前・午後 10 時 00 分～ 午前・午後 12 時 00 分まで
報告者（部会長氏名） <敬称略>	新井 勝紘	専門員氏名 中村 元
出席者（参加者）氏名 <敬称略>	部会長 新井勝紘 部会委員 梅田定宏、齊藤勉、佐藤正広、前田成東、源川真希 【事務局】佐藤広 新井雅人 渡部恵一 中村元	
概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）		
<p>1．近現代資料編 1 の構成について</p> <p>「近現代部会資料編 1 の構成について（参考資料）」などをもとに、資料編 1 の構成について検討がおこなわれた。</p> <p>（1）資料編 1 の位置づけについて</p> <p>資料編 1 は、本編を作るための基礎作業との位置づけで編集すること、資料選定は本編を意識し行うことなどが決定された。</p> <p>（2）解説について</p> <p>資料編 1 に付す解説については、資料一点ごとに付すよりは、全体についての総論と、資料群ごとに解説・解題を付す方が良いのではないかと、との意見が提起された。</p> <p>（3）データ資料の扱いについて</p> <p>統計資料などのデータ資料については、今後各部会委員がどのようなデータを把握することが必要か、各自検討することとなった。</p> <p>2．近現代資料編 1 に収録する資料選定の方法について</p> <p>前回 1 2 月 2 0 日の部会会議で 6 月までに行うことになった近現代資料編 1 に収録する飼料の選定の方法については、</p> <p>〔1〕平成 2 2 年 3 月までに、部会長・各部会委員が、担当する時代の旧役場文書の目録をチェックし、閲覧すべき資料（簿冊）を選択する。</p> <p>〔2〕平成 2 2 年 6 月までに、部会長・各部会委員が、上記〔1〕の資料（簿冊）の中身を確認し、資料編 1 に掲載する第一次候補となる資料を選定する。</p> <p>という方法で資料選定作業をすすめることが決定された。</p>		

なお部会長・部会委員が上記作業が困難な場合は、部会長・部会委員の指示の下に専門調査員が補助作業をおこなうことが決定された。

3. その他

(1) 今後実施が必要な課題について

今後近現代部会で実施していくことが必要な活動として、以下の諸活動が挙げられた。

- ・先輩研究者からの聞き取り
- ・フィールドワーク（市内各地の实地踏査）
- ・近現代部会構成員の調査報告会

(2) 次回会議の日程について

次回部会会議は、平成22年3月30日（火）に開催することとなった。

【配布資料一覧】

八王子市史編さんの基本的な考え方 市史編さん基本構想

八王子市史編集方針

現在作成中の各種資料目録（参考例）

近現代部会資料編1の構成について（参考資料）

八王子市市史編集専門部会 近現代部会 構成員一覧（平成22年1月24日現在）

部 会 名	平成 21 年度 第 3 回 自然 部会会議	開催（実施）日時 平成 21 年 12 月 14 日（月） 午前・ 午後 2 時 00 分～ 午前・ 午後 4 時 30 分まで
報告者（部会長氏名） ＜敬称略＞	畔上能力	専門員氏名 押田佳子
出席者（参加者）氏名 ＜敬称略＞	部会長 畔上能力 部会委員 粕谷和夫 菱山忠三郎 新井二郎 奥田重俊 須田孫七 須田真一 草野保 岡崎弘幸 【事務局】佐藤広、新井雅人、押田佳子	
概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）		
<p>1．市史に必要な分野の検討</p> <p>（1）分類として取り上げたい項目</p> <p>＜生物：生態系における役割から判断して以下の項目が考えられる＞ は執筆担当者が部会委員、 は執筆担当者が想定できるもの。</p> <p>生産者 植物： 維管束植物、 蘚・苔類</p> <p>消費者 動物： 哺乳類、 鳥類、 両生類、 爬虫類、 魚類、 昆虫類、 クモ類</p> <p>分解者 菌類</p> <p><地学></p> <p>地形・地質 / 気象・気候（データはお天気相談所に有り）</p> <p>（2）取り上げたいテーマ（トピック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川の魚類の移り変わり。 ・外来種の問題（すべての生物分野において）。 ・八王子の自然の昔と今の比較 <p>2．本編・資料編における上記分野の扱いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り上げたい項目を A 本編で取り扱う項目、B トピックとして本編で取り扱う項目、C 学術的価値が高いため調査報告書で取り上げる項目、の3つにカテゴライズするのはどうか。 ・上記分類群のうち、維管束植物、脊椎動物については、一般市民の興味を引きやすい。一方、昆虫類は、鱗翅目（チョウ）、蜻蛉目（トンボ）、直翅目（バッタ）など、メジャーな目は関心をあつめやすいが、それ以外については難しい。本編では総説とメジャーな分類群を扱い、それ以外については、目録とあわせて、調査報告書で取り上げてはどうか。 ・従来の市史は生息種について説明する目録的なものが多い。これからは植生など生態学的なものの見方が必要。八王子では、大きなフィールドと豊かな自然環境を活かして、総合的な見地 		

を持って作ることが市史の目玉となり、読者層が広がるのではないか。

- ・昆虫や植物など種数が多い分野の分布情報を把握するためには、生息環境をある程度事前に分類できるほうがよい。いくつかの地形分類タイプに分けることはできないか？

例) 山地、丘陵地、台地、低地、・・・他

- ・資料編は現時点での記録を残すための客観的資料とする。

3. 故金井郁夫氏の資料調査について

- ・資料調査を希望している分野：哺乳類、鳥類、昆虫類
- ・調査カードは、お借りしてコピーしたものを入力、整理するのがよいのではないか。

4. 各分野における今後の調査活動計画

- (1) 昆虫類：東京都本土昆虫目録作成プロジェクト(TKM)メンバー(10名)を中心に基礎資料(文献および標本)調査、現地踏査の実施。
- (2) 両生類・爬虫類：東京都環境局環境評価担当が発行している東京都下のアセスメントの報告書をもとに文献調査を実施したい。
- (3) 哺乳類：野生動物痕跡調査(現地調査)、自動撮影カメラによる生息状況調査、目撃情報調査(聞き取り、アンケート)
- (4) 植物：フロラ情報は3次メッシュ上で表示し、既存の目録、分布情報について、データ化を進める。
- (5) 鳥類：市史編さん室主催、八王子・日野カワセミ会主導の観察会の実施。
- (6) 地学：環境アセスメント資料(ボーリング結果)から把握できるのではないか。
- (7) その他
 - ・腕章：名札では遠くから確認できないため必要。
 - ・傷害保険：現地調査の際に危険が伴うため必要。
 - ・河川地図、3次メッシュ情報が載った八王子全域の地形図を入手してほしい。
 - ・作業用にテーブルサイズの八王子市の地図(観光用の地図)、通常の1/25,000地形図がほしい。
 - ・調査活動には相当のマンパワーを要する。市民に問いかけて参加を募るなど、調査のありかたを検討していく必要がある。

5. 今後の自然部会の動き

- ・1月下旬以降 第4回自然部会会議

<調査計画>

- ・12月下旬～ 野生生物痕跡調査の実施(哺乳類)
- ・1月～3月 標本資料調査などの実施(昆虫類)
- ・3月 野鳥観察会(鳥類)

部 会 名	平成 21 年度 第 4 回 自然 部会会議	開催（実施）日時 平成 22 年 2 月 15 日（月） 午前・ 午後 4 時 00 分～ 午前・ 午後 6 時 00 分まで
報告者（部会長氏名） < 敬称略 >	畔上能力	専門員氏名 押田佳子
出席者（参加者）氏名 < 敬称略 >	部会長 畔上能力 部会委員 粕谷和夫 菱山忠三郎 新井二郎 奥田重俊 須田孫七 須田真一 草野保 【事務局】佐藤広、新井雅人、押田佳子	
概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）		
<p>1．本編の具体的な構成について</p> <p>(1) 全体構成</p> <p>「八王子市史 自然編（仮）」における目次構成および現時点で想定される執筆担当者について議論した。今後は、地形・地質分野および気象・気候分野の担当を確定し、各分野のページ数などを詳細に決め込む必要がある。</p> <p>(2) 版型</p> <p>本編は、種名の記述や写真の量などから考えて、A4サイズカラー、横書き、2段組が望ましい。ソフトカバーの場合、500ページ～600ページ程度が想定される。</p> <p>また、出現種を学術的に取りまとめた調査目録は、ソフトカバーの調査報告書に挿入する。</p> <p>2．現在進行中の調査に関する報告</p> <p>(1) 地形分類作業の結果報告および全分野における八王子の地形の共通認識の調整</p> <p>八王子市内のみを視野に入れると「山地」「丘陵地」「台地」「低地」の4分類がなされるが、多摩や東京全土といった広域から捉えると「台地」「低地」は河岸段丘の1部であるため、明確な定義づけが難しい。最終的に「山地」「丘陵地」「沖積地」に3分類する。</p> <p>(2) 鳥類分野における文献資料調査に関する報告</p> <p>昭和30年代以降の文献より、過去の鳥類分布の読み取り調査を進行尾中。</p> <p>(3) 哺乳類分野における野生動物痕跡調査に関する報告</p> <p>平成21年12月以降、高尾山を中心に計4回の現地踏査を行っている。</p>		

3．今後の調査計画について

(1) 昆虫分野

- ・旧高尾自然科学博物館標本資料調査(2月末～3月末まで)
- ・野外調査(4月～10月)

(2) 植物分野

- ・3次メッシュ単位での植物相調査を4月以降に実施

(3) 哺乳類分野

- ・小学校6年生へのアンケート調査(野生生物目撃情報)の実施

4．その他

- ・浅川の野鳥観察会の実施についての周知

部 会 名	平成 21 年度 第 3 回民俗部会会議	開催（実施）日時 平成 21 年 9 月 20 日（日） 午前・ 午後 3 時 30 分～ 午前・ 午後 5 時 00 分まで
報告者（部会長氏名） < 敬称略 >	小川直之	専門員氏名 松尾あずさ
出席者（参加者）氏名 < 敬称略 >	部会長 小川直之 部会委員 津山正幹 小野寺節子 入江英弥 宮本八恵子 専門調査員 大藪裕子 神かほり 高久舞 【事務局】佐藤広 新井雅人 渡部恵一 松尾あずさ	
<p>概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください。）</p> <p>1．テーマ別調査について</p> <p>（1）部会長より下記の要望が出された。</p> <p style="padding-left: 2em;">今年度よりテーマ別調査に入ってほしい。</p> <p style="padding-left: 2em;">市域全体を視野に入れた調査を行なってほしい。</p> <p>（2）テーマ別調査の分担は下記のとおり決定された。</p> <p style="padding-left: 2em;">開発 小川直之部会長</p> <p style="padding-left: 2em;">民具 宮本八恵子部会委員</p> <p style="padding-left: 2em;">民家 津山正幹部会委員</p> <p style="padding-left: 2em;">祭り 小野寺節子部会委員、入江英弥部会委員、高久舞専門調査員</p> <p style="padding-left: 2em;">職人 大藪裕子専門調査員</p> <p style="padding-left: 2em;">織物 神かほり専門調査員</p> <p style="padding-left: 2em;">日記 美甘由紀子専門調査員</p> <p style="padding-left: 2em;">高尾 乾賢太郎専門調査員</p> <p>2．民俗誌調査について</p> <p>（1）合併前の旧町村単位で調査するか、どうか。</p> <p>3．次回部会活動日程</p> <p style="padding-left: 2em;">10月25日（日）午前10時より実踏調査（多摩丘陵）午後2時より部会会議を開催する。</p>		

部 会 名	平成 21 年度 第 4 回民俗部会会議	開催（実施）日時 平成 21 年 10 月 25 日（日） 午前・ 午後 2 時 00 分～ 午前・ 午後 4 時 00 分まで
報告者（部会長氏名） ＜敬称略＞	小川直之	専門員氏名 松尾あずさ
出席者（参加者）氏名 ＜敬称略＞	部会長 小川直之 部会委員 入江英弥 宮本八恵子 専門調査員 大藪裕子 神かほり 乾賢太郎 高久舞 【事務局】佐藤広 新井雅人 松尾あずさ	
<p>概要（末尾に配布資料を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください。）</p> <p>1．テーマ別調査について</p> <p>（1）部会員より調査活動計画が提示され、それに対して部会長が意見を述べた。</p> <p>農間余業をおさえていくと、八王子の特色が出るのではないか。</p> <p>民具調査は、刻印からみる千歯扱の修理の広がり、背負梯子の違いなどを市内や隣接地で調べるのもよいのではないか。</p> <p>テーマ別調査の事例は、旧 10 か村（近代）ごとに出してほしい。</p> <p>織物調査に関しては、近現代部会と重複しないように配慮しなければならない。近現代部会では商慣行までは扱わないであろうから、聞き取りをしっかりと行なってほしい。八王子織物組合の資料も利用されたい。市域各地での織物生産の違いがわかるとよい。</p> <p>職人調査は、「生活するうえでどういった職人が必要であったか」を主眼におき、「技能功労者」のリストを精査するなどして調査先を決めてほしい。</p> <p>高尾に関しては、近世部会や近代部会との棲み分けに配慮し、文献史料も視野に入れつつ調査を進めてほしい。市域において高尾が庶民信仰としてどうであったかを明らかにされたい。高尾に限らず民間信仰の重層性、棲み分けについて明らかにされたい。</p> <p>祭り調査は、小野寺部会委員 民俗芸能、入江部会委員 神輿中心の祭り、高久専門調査員 囃子と、3人で分担してほしい。旧『八王子』市史で扱っていない芸能も取り上げてほしい。</p> <p>2．次回以降の部会活動日程</p> <p>11月15日（日）実踏調査と民俗芸能調査、明年1月31日に部会を行なう。1月31日にはこれまでの個別調査の成果を発表するとともに、来年度の地域調査地を決めたい。</p>		

部 会 名	平成 21 年度 第 5 回民俗部会会議	開催（実施）日時 平成 22 年 1 月 31 日（日） 午前・午後 10 時 00 分～ 午前・午後 0 時 00 分まで
報告者（部会長氏名） <敬称略>	小 川 直 之	専門員氏名 松尾 あずさ
出席者（参加者）氏名 <敬称略>	小川部会長、津山副部会長、宮本部会委員、入江部会委員、 大藪専門調査員、神専門調査員、高久専門調査員 【事務局】佐藤、新井、松尾	
<p>概要（末尾に配布資料名を記載。必要なものがあれば事務局に御連絡ください）</p> <p>1．報告事項</p> <p>（1）事務局報告 市史編さん基本構想、編集方針について</p> <p>（2）部会委員、専門調査員による調査報告 八王子の民俗に関する情報は部会の中で共有するため、今後の部会では、1、2名ずつ調査報告を行っていく。 宮本八恵子部会委員による箆（おさ）に関する報告</p> <p>2．協議事項</p> <p>（1）地域（民俗誌）調査地の選定 旧村単位で総合調査を行う。平成 22 年度は恩方地区で調査を行い、平成 23 年度に報告書として刊行する。調査地を恩方全体とするか、上恩方、下恩方、小津などに限定するかどうかは、次回部会で検討する。</p> <p>（2）今年度の活動費執行予定 今年度の活動費の執行予定を 2 月 8 日までに事務局に連絡を入れること。</p> <p>（3）『暮らしの写真帳』（仮称、報告書）の刊行について 昭和 30 年代のものでもよいので、民俗を捉えた人が写っている写真を選択し、それについて聞き書きを行う。これにより、ビジュアルな民俗誌を刊行したい。</p> <p>次回部会は、3 月 28 日に行う。</p> <p>【配布資料一覧】</p> <p>1．宮本八恵子部会委員作成「八王子市史民俗調査レポート 2009 . 11.13」</p> <p>2．宮本八恵子部会委員作成「八王子市史民俗調査レポート 2009 . 11.20」</p> <p>3．宮本八恵子部会委員作成「八王子市史民俗調査レポート 2009 . 12. 3」</p> <p>4．宮本八恵子部会委員作成「八王子市郷土資料館所蔵の製糸用具と機織り用具について 2009 . 12.3」</p>		

- 5 . 宮本八恵子部会委員作成「八王子市郷土資料館所蔵の箴」
- 6 . 宮本八恵子部会委員作成「八王子市郷土資料館所蔵・箴の調査経過報告 2010 . 1.22」
- 7 . 入江英弥部会委員作成「八王子市高月町滝のお飾り集めと福の神 2010.1.6」
- 8 . 乾賢太郎専門調査員作成「飯縄神社調査レポート 2009.4.16～2009.10.14」
- 9 . 乾賢太郎専門調査員作成「松竹の薬師の祭礼タイムスケジュール 2009.9.5」
- 10 . 乾賢太郎専門調査員作成「日野飯縄神社の祭礼タイムスケジュール 2009.10.4」
- 11 . 高久舞専門調査員作成「八王子市芸能一覧 既存資料集」

平成22年度 市史編さん室事業予定表(案)

NO	事業内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
1	市史編さん審議会								第1回			第2回		
2	市史編集委員会			第1回				第2回			第3回			
3	専門部会調査・研究活動													
	原始・古代部会	資料編原稿執筆						資料編編集・写真撮影等						
	中世部会	地域調査・資料調査			夏季集中調査		地域調査・資料調査							
	近世部会	資料調査・筆耕			資料選択・目次検討									
	近現代部会	資料選択(一次)・筆耕			目次検討		資料選択(二次)・解説原稿執筆							
	自然部会	野外調査・標本調査(動物、植物)												
	民俗部会	テーマ別調査・地域別調査												
4	市民講座開催							講座開催						
5	いちょう塾提供講座開催	前期講座									後期講座			
6	「稲荷山通信」発行				第5号				第6号				第7号	
7	『市史研究』発行	原稿依頼・募集						編集		第1号発行				
8	マイクロフィルム作成		近世文書・近現代文書											
9	古文書等資料薫蒸		委託薫蒸											
10	土壌分析調査(原始・古代)								委託調査					
11	庁内職員研修						研修会開催							
12	ボランティア養成		ボランティア養成講座			ボランティア活動								

『市史研究』の発行について（素案）

- 1 名称 『新八王子研究』（仮称）
- 2 体裁 A5判 縦書き 150ページ程度
- 3 発行部数 1,500部
- 4 発行予定日 平成22年11月下旬

5 原稿の区分

(1) 依頼原稿

主な原稿は、編集委員会から依頼する。

(2) 投稿原稿

市民に開かれた冊子とするため、下記の投稿規程により原稿を募集する。

< 投稿規定 >

ア 投稿原稿について

投稿可能な方は、八王子市に在住、在学、在勤の者。原稿は八王子の自然や歴史に関する未発表のもの。

また、資料に関する調査・研究の成果ばかりではなく、調査や研究活動そのものに関する記録などでも可とする。

イ 審査

投稿原稿については、編集委員会で審査する。査読を行い、その結果に基づいて市史編集委員会で掲載の採否の決定をする。

審査に当たっては、論題の妥当性、方法の適切さ、論理展開や結論の明確さ、八王子の自然・歴史研究との関係性などを基準とする。審査によっては、原稿の修正をお願いする場合もある。

ウ 掲載区分

- (1) 論文 過去の関係する研究成果を踏まえ、新しい見解が示されたもの
- (2) 調査報告 自ら調査し、分析した成果を報告するもの
- (3) その他 市史編さんや八王子の自然・歴史に関する随想、感想、意見など

エ 原稿の枚数

- (1) 論文 40枚程度
- (2) 調査報告 20枚程度
- (5) その他 1枚から20枚

オ 校正

投稿原稿の著者校正は、1回（初校）のみとする。初校での校正は誤字・脱字等の誤

植の訂正とし、大幅な加筆・修正は認めない。著者校正の期間は10日以内とし、初校は原稿とともに返送する。

カ 抜刷

抜刷は論文・調査報告に限り、20部を無料で作成する。

キ 原稿の送付に際してのお願い

投稿原稿はオリジナル原稿のほか、コピーを2部添付して送付すること。ワープロ原稿の場合は、打ち出し原稿とともにフロッピーなどを添付すること。

送付に際しては郵便事故にそなえ、原稿の控えをとり、書留または簡易書留で郵送してください。

6 編集の体制

市史編集委員会で、編集する。

7 刊行スケジュール

5月 市広報やホームページで、投稿を呼びかける。原稿依頼。

8月下旬 原稿締切り

9月下旬 審査、編集

11月下旬 刊行

8 刊行計画

(1) 平成22年度 1号 「地方主権」時代の歴史編さん

(2) 平成23年度 2号

(3) 平成24年度 3号

(4) 平成25年度 4号

(5) 平成26年度 5号

(6) 平成27年度 6号

(7) 平成28年度 7号 まとめ

9 頒布の方法

(1) 有償を原則とする。関係者、協力者などには無償とする。

創刊号の編集 < 素案 >

口 絵 写真など 4 ページ
扉
目 次
あいさつ 八王子市長 黒須隆一

市史編さん審議会会長 市史編集委員会委員長
歴史研究・資料保存・地域研究などについてエッセイ風に自由に述べていただく。

< 例です >

特集「地方主権」時代の歴史編さん

自治体経営と歴史編さん

自治体における公文書保存の課題

創刊にあたって、市史編さんの意義を考える

論文等

資料紹介

市史編さんの動き

市史編さん関係者名簿

編集後記

奥付

市史編さんにおける市民協働について（素案）

- 市民の視点からの編さんを目指して -

八王子市総合政策部市史編さん室

平成22年3月

目 次

はじめに

市史編さんにおける市民協働について 1

- 1 趣旨
- 2 言葉の定義
- 3 「八王子市史編さんの基本的な考え方 市史編さん基本構想」の市民協働
- 4 市民協働の方針
- 5 多様な市民との協働
- 6 ボランティアについて

市民協働の前提となる広域・庁内連携 5

- 1 広域連携
- 2 庁内の連携

資料 7

- 1 市史編さん室での市民協働の事例（平成22年3月現在）

市史編さんにおける市民協働について

1 趣 旨

市政運営の基本となる「八王子ゆめおりプラン」(八王子市基本構想)に示されているまちづくりの基本理念「人とひと、人と自然が共生し、誰もが生き生き生きるまち」を踏まえ、平成21年12月1日に市史編さんのよりどころとなる「八王子市史編さんの基本的な考え方 市史編さん基本構想」を定めた。

この「八王子市史編さんの基本的な考え方」に基づくとともに、「八王子市市民参加条例」(平成20年3月28日条例9号)を踏まえ、市史編さんにおける市民協働を推進するため、その方針と展開方法をここに示す。

2 言葉の定義

(1) <市民とは> 市民とは、「市内に在住、在勤又は在学する個人並びに市内に事務所又は事業所を有する個人及び法人その他の団体をいう」(八王子市市民参加条例(平成20年3月28日条例9号))

(2) <協働とは> 地域のさまざまな問題や課題を解決するために、異なる組織が、それぞれの特性を最大限発揮して、協力・協調していくこと <この定義は組織と組織の関係に重点を置いて定義したもので、市民個人の参加・参画も協働と捉える> (『職員のための協働ハンドブック』平成17年 八王子市)

3 「八王子市史編さんの基本的な考え方 - 市史編さん基本構想 - 」の市民協働

「八王子市史編さんの基本的な考え方 市史編さん基本構想」には、市民協働に関することが次のように定められている。

4 市民協働

市史編さんにあたっては、生活する市民の視点からの編さんを行うため、以下の方針により市民協働をすすめるものとする。

- (1) 市民や地域、大学と協働し、地域の歴史を掘り起こすことにつとめる。
- (2) 市民によるボランティアの活用を図る等、市民参加、参画の機会の拡大につとめる。
- (3) 地域の研究団体や個人、学校などと連携し、編さん事業の普及につとめるとともに、次世代に向けた人材育成を図る。

4 市民協働の方針

- (1) 市史編さん室は、市民に対して積極的に情報公開を行い、市民が参加・参画しやすい環境を整備する。
- (2) 協働する市民は、「八王子市史編さんの基本的な考え方 - 市史編さん基本構想 - 」を基本に互いの立場を尊重し、責任と自覚を持って市史編さんにおける課題の解決に取り組む。
- (3) 市民と市史編さん室は、自然や歴史、伝統文化の研究が主体的な市民の手によって進められてきたことを認識し、地域の発展と文化の向上に資するためにボランティア活動を推進する。

5 多様な市民との協働

市民（個人や法人、その他の団体）の持つ多様な知識・経験・個性・特技・地域性などを活かすため、柔軟な協働をすすめる。現在想定される範囲内で、市民との関係などを下に記した。

(1) 個人

ア 市民一般

『市史編さん室だより 稲荷山通信』などの印刷物の配布、市民講座の開催、八王子市民大学「いちょう塾」への講座の提供、新聞などのマスコミへの情報提供、ホームページでの発信など、市史編さん室が積極的に市民への普及につとめる。

イ 資料所有者

資料所有者からは、資料そのものや資料に関する情報の提供をしていただく。市史編さん室では、提供していただいた資料を整理して目録を作成し、編さんとその後の活用を想定してマイクロフィルム化する。また、保存・管理に関する情報を資料所有者に提供する。資料が劣化しないように中性紙封筒などに入れて返却し、永久的に保存・管理できるよう配慮する。

ウ 専門研究者

全国的な研究業績があり、八王子の自然や歴史研究に多大な寄与をされた研究者、及び八王子の自然や歴史研究等できわめて顕著な業績のある市民は、「**市史編さん室顧問**」とする。

エ 地域史研究者

八王子を中心とした地域史研究において業績の顕著な研究者（市史編集専門部会の部会長・部会委員・専門調査員・調査員を除く）で、特に意見を聞くべき方は、「**市史編さん室参与**」とする。

オ 八王子を中心とした地域史研究において業績の顕著な研究者（市史編集専門部会の部会長・部会委員・専門調査員・調査員を除く）で市民は、「**市史編さん**

ん専門協力員」とする。

カ 自然や歴史愛好者等

地域史研究における一定の業績があり、市史編さんに対する強い関心や意欲のある市民は、「市史編さん市民協力員」とする。

名 称	内 容
市史編さん室顧問	全国的な研究業績があり、八王子の自然や歴史研究に多大な寄与をされた研究者、及び八王子の自然や歴史研究等できわめて顕著な業績のある市民
市史編さん室参与	八王子を中心とした地域史研究において業績の顕著な研究者（市史編集専門部会の部会長・部会委員・専門調査員・調査員を除く）で、特に意見を聞くべき方
市史編さん専門協力員	八王子を中心とした地域史研究において業績の顕著な研究者（市史編集専門部会の部会長・部会委員・専門調査員・調査員を除く）
市史編さん市民協力員	地域史研究における一定の業績があり、市史編さんに対する強い関心や意欲のある市民

(2) 団 体

ア 自然や歴史に関する市民団体

団体からは、資料や資料に関する情報を提供していただき、講演会や講座の開催などの普及的な活動で連携し、市史編さん室は団体の活動を支援する。

イ 企業

企業からは資料や技術・情報などの提供をしていただき、財政的な支援があった場合には、市史編さん室は刊行物への広告掲載などを行う。また、企業の社会貢献の機会を考慮する。

ウ 学校等

主に普及活動で連携する。各学校で所有している資料や情報の提供をしていただく。大学等においては資料の収集・調査・研究などで連携する。特に大学との連携、共同研究などを図る。

6 ボランティアについて

(1) ボランティアについての考え方

- ア 「八王子市史編さんの基本的な考え方 市史編さん基本構想 」に基づいた「市民協働の方針」により、市民を対象としたボランティアを企画し実施する。
- イ 市史編さんは、地域に関する実物資料を実際にあつかつて調査・研究をすすめる研究者を中心とした高度で専門性の高い業務である。また、八王子市は市域も広く歴史や自然の豊かな地域ではあるが、編さんに要する期間も限られている。

このことを前提に、効果的にボランティアを組み立てることとする。

(2) 予測される活動内容

ア 資料収集・調査など

- ・ 新聞や書籍など、活字になっているものから八王子に関する情報を調べる。
- ・ 古老などから、八王子に関する過去の生活体験などを聞き取る。
- ・ 寺院や神社の境内に残されている石仏・碑・梵鐘などを調べる。

イ 資料をもとにしての研究へ

- ・ 資料調査で経験をつんで関心が深まれば、レポートを書き報告などをする。

ウ 市民が持っている特技を活かしたもの。

- ・ 編集、デザイン、イラスト、ICTなどの技術を、刊行物やホームページなどに活用する。

エ 普及活動を目的に、講座・シンポジウム・講演会・ワークショップなどを開催する。

(3) 研修 はじめてボランティアに参加する場合や、活動中には研修を行う。

(4) 活動の期間 市史編さん室の業務が終了するまでの期間とする。

市民協働の前提となる広域・庁内連携

1 広域連携

現在の私たちの暮らしの中では、八王子市という行政区画に生活が規定されることが多い。しかし、自然や歴史、伝統文化は、現在の行政区画を前提にして成立しているわけではない。歴史的にはそれぞれの時代ごとに特色ある経済圏や生活圏、行政的区画が成り立っている。

他地域へと連続する大地や海をはじめとする自然や、国内各地はもとより海外との関係をもって織り成してきた八王子の歴史を対象とする市史編さんは、広域的な視点・広域的な連携を欠かすことができない。

(1) 全国の自治体、特に公文書館や自治体史編さん担当との連携

ア 事務局を中心とした連携

全国の自治体からは、『 史(誌)』といった自治体史の献本を受け、編さんの参考としている。また、先行する自治体史編さん担当からは、編さん業務に関するマネジメントや専門的情報等を提供していただいている。

イ 調査・研究に関する連携

八王子に関する資料は、他の市町村にも存在し、関係する自治体・機関・研究者との連携を要する。海外に渡った八王子市民、また戦争に関する資料などは海外に存在している可能性があり、国内ばかりではなく海外との連携も想定される。

また、八王子に関する資料が無くとも、八王子に関する資料の調査・研究を深めるうえでの広域的な研究連携も考えられる。

< 姉妹都市・海外友好交流都市 >

八王子市における典型的な広域連携には、姉妹都市と海外友好交流都市とがある。江戸時代の八王子千人同心の活躍を縁に、昭和48年に北海道苫小牧市、昭和49年には日光市と姉妹都市の盟約を結んでいる。

また、平成18年に市制90周年を迎えたことを機に、中華人民共和国の泰安市、台湾の高雄市、大韓民国の始興市との交流をスタートさせている。

2 庁内の連携

庁内連携の核は、資料である。

八王子市教育委員会は、生涯学習スポーツ部文化財課が八王子市郷土資料館の管理運営を担当している。郷土資料館は、「郷土の資料その他文化的、教育的資料を収集し、保存し、展示して、教育ならびに調査研究等に資することにより、市民及び地域社会の文化の発展に寄与するため（八王子市郷土資料館条例 第1条（目的及び設置））」設置された。埋蔵文化財を中心とした市民の文化財保護運動の成果として、また、東京オリンピック記念として昭和42年に開館した施設で、主に市民から寄せられた約10万点の資料を収蔵している。

文化財保護法で定められている開発等の際しての発掘調査は文化財課が担当し、調査で得られた成果は発掘調査報告書にまとめられ、膨大な考古資料は郷土資料館や埋蔵文化財整理室に保管されている。

平成16年3月に閉館した東京都立高尾自然科学博物館の文献も含めた収蔵資料約8万点は、東京都から八王子市に譲与され、教育委員会生涯学習スポーツ部生涯学習総務課が保存・管理を担当し、市史編さん室のある旧市立稲荷山小学校に保存されている。

行政における文書の保管及び保存に関することは、総務部総務課が担当している。生活安全部防災課が担当していた天気相談所のデータは、本市ならではの貴重なものである。

市民が気軽に資料を活用できる環境の整備を目指して、資料を保存管理している関係所管が、市全体の視点から連携し、計画的で効率的・効果的な業務の推進を図る必要がある。

（1）直接資料に関係する課

ア 公文書	総務部総務課
イ 埋蔵文化財	教育委員会生涯学習スポーツ部文化財課
ウ 郷土資料	教育委員会生涯学習スポーツ部文化財課
エ 自然資料	教育委員会生涯学習スポーツ部生涯学習総務課
オ 気象データ	市生活安全部防災課

（2）全庁的な関係

各委員会・市議会・部・室・課・館・学校等と、関係する団体などで所蔵する資料は、市史編さんでの活用が予測される。また、それぞれの職場の歴史の変遷を把握することが望まれる。

庁内での連携をすすめるため、関係所管による庁内組織の設置が望まれる。

資料

1 市史編さん室での市民協働の事例（平成22年2月現在）

（1）個人

- ア 市民一般 ボランティア<市史編さんパートナーズの設置を予定>
- イ 資料所有者 古文書などの提供があり、編さん室では記録し、目録を作成
- ウ 地域研究者 八王子市民大学「いちよう塾」での講座提供 歴史等の普及

（2）主に自然や歴史に関する団体

- ア 研究的団体 日野・八王子カワセミ会 浅川の野鳥観察会を共催（3月7日）
古文書を探る会、みずきの会、近世の古文書を学ぶ会、21世紀
古文書を読む会、古文書解読クラブには、古文書に関するデータ
を提供していただいた。
郷土資料館古文書調査ボランティアには、6年間の調査目録を提供
していただいた。

（3）大学・研究機関など

- ア 大学 市史編さん審議会委員・市史編集委員などへの委員として招聘
法政大学多摩図書館では、特別利用を許可していただいた。
法政大学大原社会問題研究所は、市民講座に協力（講師派遣 施
設見学）いただいた。
杏林大学外国語学部の講座「地域の伝統文化」へ、講師として職
員を派遣

イ 経済団体他

八王子商工会議所の八王子都市文化伝承館検討委員会に、委員と
して職員を派遣
八王子市学園都市文化ふれあい財団の伝統文化ふれあい事業実
行委員会に、委員として職員を派遣

（4）庁内連携

- ア 資料提供 郷土資料館他各課
- イ 総務部総務課 公文書の保存
- ウ 総合政策部政策審議室 八王子都市政策研究会議 公文書部会
共同研究「市民のための公文書管理のあり方」（『まちづくり研究はちおうじ』
第6号）
- ア 生涯学習スポーツ部学習支援課 共催市民講座の開催
- イ 市民活動推進部男女共同参画課 育成グループとの連携